

平成27年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	羽島市	学校名	桑原小学校		
校長名	高橋佐千夫	対象学年	3年・5年・全校	人数	18名・17名・111名
活動名	桑原大すき (3年) アイガモ農法挑戦 (5年) 地域ふれあい活動 (全校) 双樹園交流(全校)	時間数	3年生 (30時間) 5年生 (24時間) 全校 (4時間) 全校 (15時間)	継続年数	17年 17年 18年 23年
題材	①自然環境 (動物) [牛とのふれあい体験] ②歴史 (史跡・その他) [桑原町探検 (寺・神社・河川関係)] ③文化 (風習) [行灯作り・墨絵体験・大根鉄砲作り・餅つき体験・五平餅作り] ④地場産業 (農業・その他) [田植え・アイガモ放鳥・稲刈り・青田刈り・注連縄作り] ⑤絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 [双樹園交流・福祉体験]				
複数年継続するための工夫改善	・生活科・総合的な学習の時間において明確な願いのもと、地域を素材にした学習内容を発達段階ごとに計画し、学習を通して継続的に地域の人々や自然、産業などと関わっている。 ・活動に関わる町生涯学習活動振興会をはじめとする諸団体と連絡を密にとり、事前事後の連絡を大事して活動の願いの共有と改善に努めている。				

1 ねらい

桑原町の自然・文化・産業等を学び、桑原町の一員としての自覚や誇りを育てる。

2 活動の概要

	年	課題	学習活動	児童生徒の様子
桑原大好き	3	自然や文化に興味関心をもって調べ、町を愛し大切にしようとする	・桑原探検で町の様子をしる。 ・地域の人と触れ合う活動 (行灯作り・大根鉄砲作り 他)	地域の方に進んで話しかけて活動を進めたり、探検学習の成果を分かりやすく伝えたりすることができた。
アイガモ農法挑戦	5	米作り活動を通して稲や種類、育て方の問題に気づき解決方法を考えることができる。	・田植え・アイガモ放鳥・稲刈りをする。 ・収穫した米を使って五平餅つくりを行う。	講師の方の話を熱心に聞き、田植えや放鳥、稲刈りに進んで取り組んでいた。また地域の方との交流も積極的であった。
地域ふれあい活動	1	牛の生育の様子を知り、命の尊さを感じるとともに、牛乳を大切に飲もうとする気持ちをもつことができる。	・牛の生育と牛乳について知る。 ・牛乳を使ったバター作りをする。	牛の成育の話を興味をもって聞くことができた。牛乳を使ったバター作りを通して乳製品に関心をもつことができた。
	2			
	3	小刀やのこぎりを使って竹を細工し、大根鉄砲を作ることができる。	・大根鉄砲の作り方を知り、親子で制作する。 ・飛ばして改善する。	自分の力で完成させようと取組み形に近づくにつれ目が輝いた。遠くまで飛ばそうと繰り返し行っていた
	4	高齢者体験を通し、高齢者との関わりについて考えを深めることができる。	・高齢者施設について知る。 ・高齢者体験を行う。	高齢者体験では身体の不自由さを実感することができた。
	5	収穫した米を使い、仲間と協力して五平餅を作ることができる。	・五平餅の作り方を知り、作る。	お米を大事に扱い、進んで活動に取り組んだ。
双樹園交流	全校	交流を通して障がいのある方について正しく理解し、共に協力して生活していこうとする態度を育てる。	・双樹園の方のお話を聞く ・年2回学級毎に交流会を行う。 ・双樹園コンサートへの出演 (4年)	年2回の双樹園交流を楽しみにしており、ゲーム集会や給食を共にしている。帰り際には手をつなぎ玄関で別れを惜しむ姿も見られる。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

- ・年間を通して学年毎に諸団体と連携を図って活動を進めてきた。3年生では町老人会・水墨画サークルと、5年生は町内のアイガモ農法研究会をはじめ30名ほどと、「地域ふれあい活動」では地域をはじめ12団体60名余に協力いただいている。
- ・3年生では学習したことを町文化祭で展示していく。4年生では実際に施設見学を行い、福祉について学習を深めた。5年生は1年間を通して学習した稲作について学習成果を今後、家庭・地域へ発表していく予定である。

4 活動による児童生徒の変容 (伸長・成長等)

継続的な活動により、「〇年生になったら〇〇が体験できる」と児童も保護者・地域の方も楽しみにしている。様々な年代の方とふれあうことでコミュニケーション力を高めるとともに、学校外で挨拶を進んで行ったり町内の活動に進んで参加したりする姿が多く見られるなど、地域の一員という自覚と愛する心が培われてきている。